

5.9 景観

再生事業後における事業実施区域周辺に分布する主要な眺望点、景観資源および主要な眺望景観の影響について、調査、予測及び評価を行うこととしました。

その結果、調査地域は環境影響を受ける地域として景観資源の状況を適切に把握できる地域としましたが、眺望点から早明浦ダム再生事業の事業実施区域とあわせて視認可能な景観資源※はありませんでした。

一方、早明浦ダムは管理開始後 46 年が経過しており、ダムを見に訪れる方も多く、地元では観光資源として利用されています。したがって、本来、景観資源とはならない「早明浦ダム」を景観資源と設定し、表 5-87 に示す主要な眺望点から早明浦ダムを望む眺望景観の状況を把握し、早明浦ダム再生事業に伴う景観への影響を予測・評価することとしました。

5.9.1 調査手法

調査地域は、環境影響を受ける地域として主要な眺望景観の状況を適切に把握できる地域としてダム堤長の約 100 倍(40km)の半径円としました。調査地点は、景観の特性を踏まえて図 5-42 のフローに基づいて選定し、調査地域における主要な眺望景観を適切かつ効果的に把握できる左岸展望台、吉野運動公園、右岸展望台としました。

主要な眺望景観 3 箇所からの景観を現地調査において確認しました。

表 5-87 調査手法、調査地点、調査期間等

調査すべき情報		手法	調査地点	現地調査期間等
主要な眺望 景観の状況	主要な眺望点 から景観資源 を眺望する場 合の眺望景観 の状況	写真 撮影	左岸展望台 吉野運動公園 右岸展望台	【秋季】平成 30 年 11 月 16 日～17 日 【冬季】平成 31 年 2 月 15 日～16 日 【春季】令和元年 5 月 13 日～14 日 【夏季】令和元年 8 月 10 日

※ 環境影響評価で予測・評価の対象とする景観資源とは、「ダム事業における環境影響評価の考え方」によれば、自然的な構成要素として位置付けられるものとされており、通常は人工的につくられて維持されているものは含まれていません。

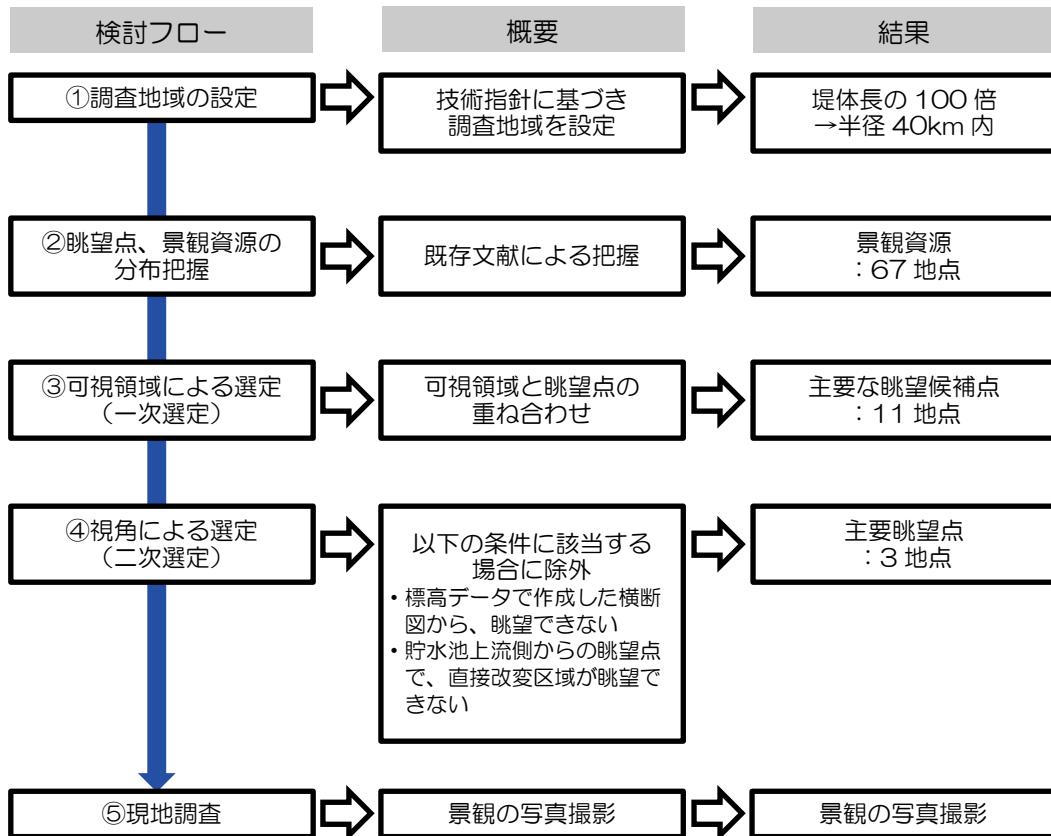


図 5-42 主要な眺望点の選定フロー



図 5-43 景観調査地点

5.9.2 調査結果

景観の調査結果は表 5-88 に示すとおりです。

表 5-88 景観の調査結果

調査地点	景観の状況
<p>左岸展望台</p> <p>左岸展望台からは早明浦ダム管理所や貯水池が一望できます。早明浦ダム周辺には落葉広葉樹林やスギ植林が広がり、森の緑と貯水池の水面の水色、空の青が美しいコントラストを形成しています。</p>	
<p>吉野運動公園</p> <p>吉野運動公園からはダム堤体を下流左岸から眺望できます。吉野運動公園は人工的なグラウンドが整備されており、コンクリートで築造されたダム堤体も違和感なく、景色に溶け込んでいます。</p>	
<p>右岸展望台</p> <p>右岸展望台からは早明浦ダム管理所や貯水池が一望できます。早明浦ダム周辺には、落葉広葉樹林やスギ植林が広がり、貯水池の水面と美しいコントラストを形成しています。</p>	

5.9.3 予測手法

予測の基本的な手法は、「土地又は工作物の存在及び供用」については、早明浦ダム再生事業の存在及び供用と主要な眺望景観の状況を踏まえ、主要な眺望景観の変化について、フォトモンタージュにより、影響を予測しました。

表 5-89 予測対象とする影響要因と環境影響の内容

予測対象	影響要因		土地又は工作物の存在及び供用
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 導流壁及び減勢工等の存在 ・ 道路の存在 ・ 建設発生土受入地の存在
主要な眺望景観	左岸展望台	地形の改変、建設発生土受入地の存在によって眺望の変化が想定されます。	
	吉野運動公園		
	右岸展望台		

5.9.4 予測結果及び環境保全措置の検討

景観の予測結果を表 5-90、再生事業後の景観の状況を表 5-91 に示します。

表 5-90 景観の予測結果

項目		予測結果の概要	環境保全措置の検討 ^{※1}
主要な眺望景観	左岸展望台	再生事業後の眺望景観は、建設発生土受入地も周辺の樹林と調和しており、増設された放流設備も既存のダム管理設備と一体化していることから、影響は小さいと考えられます。	—
	吉野運動公園	再生事業後の眺望景観は、全体的な印象はほとんど変化しないと予測されることから、影響は小さいと考えられます。	
	右岸展望台	再生事業後の眺望景観は、全体的な印象はほとんど変化しないと予測されることから、影響は小さいと考えられます。	

※1 「—」は環境影響予測の結果、影響は小さいと考えられるため、環境保全措置の検討を行わない項目を示します。

表 5-91 景観の予測結果

調査地点	景観の状況
<p>左岸展望台</p> <p>建設発生土受入地の法面や工事に伴う樹木伐採跡がダム下流の左岸に視認できるが、法面の緑化や小段に樹木を植栽することにより、周辺の景観と調和しています。</p> <p>ダム堤体に増設される放流設備は、貯水池側にわずかに視認できますが、既存のダム管理設備と一体化しており、再生事業前の景観と比較して、影響は小さいと考えられます。</p>	
<p>吉野運動公園</p> <p>建設発生土受入地の法面が、ダム下流左岸に視認できるが、谷筋のため視認できる範囲は少ない。また法面の緑化や小段に樹木を植栽することにより、周辺の景観と調和しています。</p> <p>ダム下流左岸に増設される放流設備により人工物の視認割合は若干増加するものの、手前に見える既存の植栽が存在するため、再生事業前と比較して全体的な印象はほとんど変化せず、影響は小さいと考えられます。</p>	
<p>右岸展望台</p> <p>ダム堤体に増設される放流設備は、貯水池側で建屋が視認できるが、既存のダム管理設備と一体化しています。ダム下流側もわずかに視認できる程度であり、再生事業前と比較して全体的な印象はほとんど変化せず、影響は小さいと考えられます。</p>	

5.9.5 評価の結果

景観については、早明浦ダムを望む眺望景観の状況について調査、予測しました。

その結果、「土地又は工作物の存在及び供用」による景観への影響は小さいと考えられます。

以上のことから、景観に係る環境影響が事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されると判断しています。